

陸・淡水産貝類

陸・淡水産貝類

● 概 説 ●

◆市内の陸産・淡水産貝類相の特徴

「新潟市史 資料編12 自然 別冊」における新潟市水生動物目録によると、多板綱6種、腹足綱57種、二枚貝綱50種（合計3綱113種）の貝類が収録されています。また、現市域の全域を対象として既存文献等の資料収集・整理を本市が独自に行った結果、記録が確認できる貝類種として約180種（このうち陸・淡水産種に限ると約60種）が見られます。さらに、市域内の湖沼などでは個別の調査事例があります。佐潟の調査では、マルタニシ、モノアラガイ、サカマキガイ、カラスガイなど11種が確認されています。福島潟では、カワシンジュガイ、カラスガイ、シジミ類が生息していましたが、これらは現在絶滅したものと考えられています。鳥屋野潟では、浚渫やフラッシングにより水質が改善されていますが、底性の変化により、その環境は大きく変化しているものと思われます。

なお、新潟県全体については、村山（1984）が新潟県陸産・淡水産貝類目録で、陸貝111種、淡水貝24種、合計135種を発表しています。

◆調査・選定の概要

本書では、新潟県が記載した43種のうちから14種、新潟市独自の16種、計30種を希少種として選定しました。評価の結果、絶滅危惧Ⅰ類9種、絶滅危惧Ⅱ類7種、準絶滅危惧14種となりました。選定理由別の種数は、減少12種、環境悪化30種、交雑1種、希少6種、局限・孤立15種です（複数の理由による場合もあります）。

◆減少の要因

生育を脅かしている原因別の種数は、捕獲・採取1種、森林の改変7種、草地の減少3種、水湿地の減少18種、河川の改変12種、農地の改変8種、一般開発6種、移入種の侵入1種、農薬使用11種、水質汚濁18種です（複数の原因による場合もあります）。

淡水産貝類では水質環境の改変の影響を直接受けて、また、陸産貝類では農薬などの農業関連による影響を受けています。

マメタニシ

中腹足目 エゾマメタニシ科

Parafossarulus manchouricus japonicus (Pilsbry, 1901)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	--------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

殻高は15mm以内。殻表には螺肋や螺条が認められるが，中には平滑な個体もいる。殻口は大きく卵形で体層が大きく，螺層は小さい。殻色は黄褐色から黒褐色である。蓋は灰白色。

【分布の状況】

市内 市内では，水田地帯で確認されている。

その他 本州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

カワネジガイ

基眼目 カワネジガイ科

Camptoceras terebra hirasei Walker, 1919

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少，局限・孤立

【形態など】

殻高は6～10mm，殻径は3mm。殻は薄く細長い。殻頂は尖り，螺層は離れてゆるく巻いている。殻色は淡黄色である。殻表に成長脈と弱い螺条が見られる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布するが，生息域は局限される。

【減少等の原因】

水湿地の減少，水質汚濁

【特記事項】

長谷川（1979）により記録された時には多産したが，現在は確認が困難である。

水産庁レッドデータブック記載種



撮影：市域内
写真提供：村山 均

貝陸・淡水類産
【選定種解説】

ヒダリマキモノアラガイ

基眼目 ヒラマキガイ科

Culmenella prashadi (Clench, 1931)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅰ類	環境省 絶滅危惧Ⅰ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，希少，局限・孤立

【形態など】

殻高は4～6mm，殻径は3.4mm。殻は左巻きで螺塔が低く，各螺層はねじれて，縫合は凹んでいる。殻表には明瞭な螺条や細い螺肋が見られる。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 本州に分布するが，生息域は局限される。

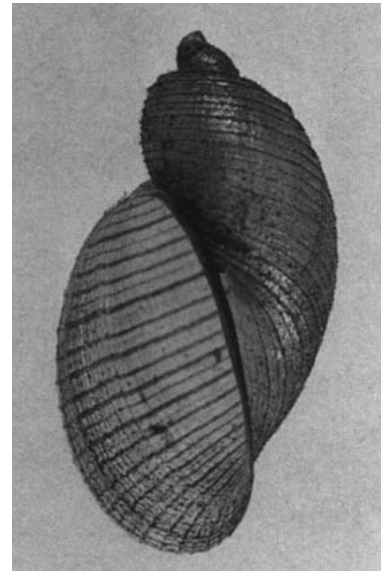
【減少等の原因】

水湿地の減少，水質汚濁

【特記事項】

長谷川（1979）により記録された時には普通に見られたが，現在は確認が困難である。

水産庁レッドデータブック記載種



撮影：市域内
写真提供：村山 均

ミズコハクガイ

基眼目 ヒラマキガイ科

Gyraulus soritai Habe, 1976

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

殻高は0.9～1.5mm，殻径は3mm。殻口は横に長く開口し，底唇は緩やかな弧を描いている。螺塔は殻頂よりだんだん太くなる。殻質は薄く，淡黄色で光沢を有する。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼で確認されている。

その他 1976年に記載された種で，埼玉県生田市が模式産地であるほか，本州，四国に広く分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

スナガイ

柄眼目 キバサナギガイ科

Gastrocopta armigerella armigerella (Reinhardt, 1877)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	----------	--------------

【選定理由】

環境悪化，希少，局限・孤立

【形態など】

殻高は1.5～2.5mm，殻径は0.7mm。約4層の小形の貝。白色の円筒形で，殻表には鈍い光沢がある。殻口は厚く反転し，外唇内側に3個，内唇に2個，軸唇に2個の歯状突起がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，その後平成21年に海岸緑地で確認された。

その他 本州，四国，九州，沖縄県に分布する。三浦半島では，マサキ群落の落葉の下で見られている。



撮影：市域内
写真提供：佐藤 修

【減少等の原因】

草地の減少，一般開発，農薬使用

ナタネキバサナギガイ

柄眼目 キバサナギガイ科

Vertigo eogea eogea Pilsbry, 1919

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

減少，環境悪化，局限・孤立

【形態など】

殻高は3mm，殻径は1.5mm。殻は螺塔の高い卵形で，褐色の半透明である。螺頂は円く，螺層はよく膨らみ，縫合は深くくびれる。体層は次体層の1.5倍くらいである。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼で確認されている。

その他 北海道，本州，四国，九州で飛び石的に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，一般開発，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

【特記事項】

局所的に複数個体が確認された。

貝陸・淡水類産
【選定種解説】

ミジンマイマイ

柄眼目 ミジンマイマイ科

Vallonia costata (Müller, 1774)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化，希少，局限・孤立

【形態など】

殻高は1mm，殻径は2mm。殻層は約4層で，平巻状の貝。殻色は灰白色を帯びる半透明。殻表には細かい縦肋が密にあり，殻口は厚くなり，口縁が鋭く反転する。臍孔は著しく幅が広い。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，その後平成21年に海岸緑地で確認された。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

草地の減少，一般開発，農薬使用



撮影：市域内 写真提供：野村 卓之

マツシマクチミゾガイ

柄眼目 クチミゾガイ科

Eostrobilops nipponica nipponica (Pilsbry, 1927)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 絶滅危惧Ⅱ類	環境省 絶滅危惧Ⅱ類
-------	---------------	---------------	---------------

【選定理由】

環境悪化，希少，局限・孤立

【形態など】

殻高は2.2mm，殻径は3.5mm。貝殻の周縁は丸く，底面は膨れ，臍孔はやや広い。殻口は新月形，唇縁は小豆色で少し広がる。殻底襞は3個で，殻軸からの第2襞(真ん中)がもっとも大きい。

【分布の状況】

市内 市内では，丘陵で確認されている。

その他 山形県，福島県，群馬県，長野県に分布する。

【減少等の原因】

捕獲・採取，森林の改変，一般開発

【特記事項】

八重山(石垣島，西表島)で産するヤエヤマクチミゾガイは近似種である。



撮影：市域内 写真提供：野村 卓之

マツカサガイ

イシガイ目 イシガイ科

Inversidens japonensis (Lea, 1859)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅰ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

殻長は50～60mm，殻高は35mm，殻幅は18mm。殻は厚く，殻頂付近の表面に凹凸がある。擬主歯は三角形で太い。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に新潟地区で確認記録がある。

その他 本州，四国，九州に分布し，河川や用水路などに生息している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁

【特記事項】

水産庁レッドデータブック記載種



撮影：市域外 写真提供：野村 卓之

ニクイロシブキツボ

中腹足目 イツマデガイ科

Fukuia kurodai kurodai Abbott et Hunter, 1949

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化，局限・孤立

【形態など】

殻高は5～10mm。小形で右巻きの貝である。殻色は赤褐色で，光沢がある。

【分布の状況】

市内 今回の市内現地調査では確認されていないが，過去に岩室地区や巻地区で確認記録がある。

その他 秋田県以西（日本海側）から京都府に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，水湿地の減少，一般開発

【特記事項】

県内では1960年代後半に長岡市鋸山で発見され，ニイガタシブキツボ（亜種＝地方型）とされた。



撮影：市域外 写真提供：野村 卓之

貝陸・淡水類
【選定種解説】

ハリマナタネ

柄眼目 ナタネガイ科

Punctum japonicum Pilsbry, 1900

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化，局限・孤立

【形態など】

殻高は2.5mm，殻径は3mm。殻は薄く，淡い褐色である。螺塔は低く，螺層はよく膨れ，縫合は深い。体層は塔状で，周縁は円い。殻表には不規則にうすい板状の細肋がある。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼周辺で確認されている。

その他 佐渡市で確認されている。

【減少等の原因】

一般開発

【特記事項】

新潟県内で2番目の生息確認地となった。



撮影：市域内 写真提供：野村 卓之

カラスガイ

イシガイ目 イシガイ科

Cristaria plicata plicata (Leach, 1815)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

殻長は150～200mm，殻高は130mm，殻幅は80mm。殻は翼卵円形で，薄い。殻頂は前方に寄り，背縁はまっすぐである。幼貝は黄色で緑色の帯があり，成長すると黒色を呈す。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼や農業用水路で確認されている。

その他 北海道，本州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，水質汚濁



撮影：市域内 写真提供：村山 均

【特記事項】

水産庁レッドデータブック記載種

マシジミ

マルスダレガイ目 シジミ科

Corbicula leana Prime, 1864

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	---------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少, 環境悪化, 交雑

【形態など】

殻長は40~50mm, 殻高は30mm。幼貝は緑黄色で成長すると殻表面に雲状紋を呈し, 最終的に黒褐色から黒色を呈す。殻の内側は濃い紫色である。台湾シジミによく似ているが, 殻の内面の色で識別することができる。



撮影: 市域外
写真提供: 野村 卓之

【分布の状況】

市内 市内では, 河川や用水路で確認されている。

その他 本州, 四国, 九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 河川の改変, 農地の改変, 移入種の侵入, 農薬使用, 水質汚濁

【特記事項】

台湾シジミとの交雑が危惧される。

ハイロマメシジミ

マルスダレガイ目 マメシジミ科

Pisidium (Cyclocalyx) casertanum (Poli, 1791)

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化, 局限・孤立

【形態など】

殻長は6mm, 殻高は3~5mm。殻色は淡灰黄色で, 裏面に光沢がある。殻は卵形で, 殻頂を除いて角はない。精巢, 卵巣各々一対あり, 精巢と卵巣の位置関係では精巢が外側(側面)にあり, 内側(中央)に卵巣が位置する。精巢の全形は矢状断面で三角形, 卵巣は卵形。



撮影: 市内
写真提供: 佐藤 修

【分布の状況】

市内 市内では, 丘陵で確認されている。

その他 北海道, 本州(栃木県), 四国(徳島県)に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 水質汚濁

【特記事項】

新潟県RDBでは「ニホンマメシジミ」とあるが, 後述を含め3種を確認した。同定には軟体部の構造が重要。

貝陸・淡水類産
【選定種解説】

アッケシマメシジミ

マルスダレガイ目 マメシジミ科

Pisidium (Neopisidium) conventus akkesiense Mori, 1938

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化, 局限・孤立

【形態など】

殻長は1.5mm, 殻高は1mm。殻は卵円形, 白色。殻の背縁に明瞭な肩があり, 後縁は截断状になる。靱帯は内在し, 殻内側へ裸出しない。外鰓はなく, 内鰓にはきわめて小さい上昇葉があり, 内鰓の下部に育児嚢ができる。

【分布の状況】

市内 市内では, 丘陵で確認されている。

その他 模式産地は北海道厚岸。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 水質汚濁



撮影: 市内
写真提供: 佐藤 修

ウエジマメシジミ

マルスダレガイ目 マメシジミ科

Pisidium (Odhneripisidium) uejii Mori, 1938

カテゴリー	新潟市 絶滅危惧Ⅱ類	新潟県 —	環境省 —
-------	---------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化, 局限・孤立

【形態など】

殻長は約2~3mm, 殻高は1~2mm。殻は横に長い卵円形から丸みのある三角形。殻色は乳白色から黄白色で, きわめて薄く, 表面には光沢がある。殻表には規則的な成長輪肋があるが, 殻頂付近では不明瞭。背縁には肩があり, 殻頂前部でゆるやかに, 後部では急に曲がる。前縁は丸まり, 先端は殻高の1/2より下位。

【分布の状況】

市内 市内では, 丘陵で確認されている。

その他 本州(兵庫県), 四国(徳島県)に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 水質汚濁



撮影: 市内
写真提供: 佐藤 修

マルタニシ

中腹足目 タニシ科

Cipangopaludina chinensis laeta (Martens, 1860)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

殻高は60mm，殻径は44mm。縫合は深く，各螺層は丸く膨らみ，殻口も広い。殻表は薄い黄緑色の殻皮で包まれ，多少光沢がある。殻は薄く破れやすい。

【分布の状況】

市内 市内では，海岸林付近や水田地帯で確認されている。

その他 北海道，本州，四国，九州，沖縄県に広く分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

オオタニシ

中腹足目 タニシ科

Cipangopaludina japonica (Martens, 1860)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

殻高は60～70mm，殻径は40～45mm。日本産淡水巻貝では最大級である。螺層は7層で，それぞれの層のふくらみは弱い。殻の皮は緑褐色で，中の方は青白色である。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼，水田，用水路で確認されている。

その他 北海道，本州，四国，九州に分布し，湖沼や川などの泥底にすむ。

【減少等の原因】

農薬使用，水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

【特記事項】

多数の成体が確認されている個所もある。

貝陸・淡水類産
【選定種解説】

ミズゴマツボ

中腹足目 ミズゴマツボ科

Stenothyra japonica (Kuroda, 1962)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少, 環境悪化

【形態など】

殻高は4～6mm, 殻径は2mm。体層は膨れて大きい。殻は黄緑褐色で鈍い光沢があり, 微細な点刻列がある。

【分布の状況】

市内 市内では, 河川や用水路などで確認されている。

その他 本州, 四国, 九州に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変, 農地の改変, 農薬使用, 水質汚濁

【特記事項】

水産庁レッドデータブック記載種
多数の成体が確認されている個所もある。



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

コシダカヒメモノアラガイ

基眼目 モノアラガイ科

Galba truncatula (Müller, 1774)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化, 局限・孤立

【形態など】

殻高は10～12mm。モノアラガイやヒメモノアラガイに比べ螺塔はやや高く, 殻口は殻高の半分くらいで, 殻も厚い。

【分布の状況】

市内 市内では, 湖沼や用水路などで確認されている。

その他 北海道, 本州の一部, 九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少, 水質汚濁



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

モノアラガイ

基眼目 モノアラガイ科

Radix auricularia japonica Jay, 1857

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻長は10mm、殻高は15~20mm。殻は細長い滴形である。螺塔が極めて低く、体層がよく発達している。殻口はヒメモノアラガイより大きい。サカマキガイと違い右巻きである。

【分布の状況】

市内 市内では、湖沼や用水路などで確認されている。

その他 全国に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、河川の改変、農地の改変、農薬使用、水質汚濁

【特記事項】

多数の成体が確認されている個所もある。



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

ヒラマキミズマイマイ

基眼目 ヒラマキガイ科

Gyraulus chinensis spirillus (Gould, 1859)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 情報不足
-------	--------------	----------	-------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は2mm程度、殻径は6mm程度の小さな巻貝である。殻は円盤のように扁平で、右巻きである。ヒラマキガイ科の貝は体液に赤い色素が含まれているため、殻の中の軟体部が赤っぽくなる。

【分布の状況】

市内 市内では、水田や池沼で確認されている。

その他 本州、九州、沖縄県に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、河川の改変、農地の改変、農薬使用、水質汚濁



撮影：市域内 写真提供：野村 卓之

貝陸・淡水類産
【選定種解説】

ヒラマキガイモドキ

基眼目 ヒラマキガイ科

Polypylis hemisphaerula (Benson, 1842)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

減少，環境悪化

【形態など】

殻径は4～5mmの円盤状。殻頂はわずかにへこみ，臍孔は狭く深い。殻の内側に白色の襞が形成され，外側から透けて見える。

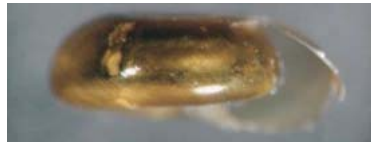
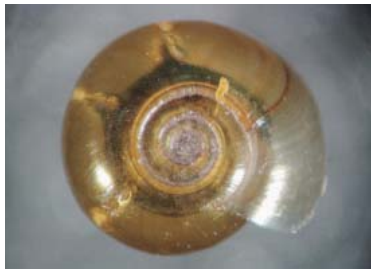
【分布の状況】

市内 市内では，農業用水路で確認されている。

その他 本州，九州，沖縄県に分布し，池沼や水田，用水路などに生息している。

【減少等の原因】

水湿地の減少，河川の改変，農地の改変，農薬使用，水質汚濁



撮影：市域外 写真提供：野村 卓之

ヒメオカモノアラガイ

柄眼目 オカモノアラガイ科

Neosuccinea horticola (Reinhardt, 1877)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 —
-------	--------------	----------	----------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は8mm，殻径は5.3mm。殻は螺層3層の長卵形である。外唇は薄く鋭く湾曲している。殻は半透明の淡黄色から淡茶褐色を呈する。軟体部は暗褐色で，触角の先端に眼がある。

【分布の状況】

市内 市内では，湖沼や用水路で確認されている。

その他 本州，四国，九州に分布する。

【減少等の原因】

河川の改変



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

ナガオカモノアラガイ

柄眼目 オカモノアラガイ科

Oxyloma hirasei (Pilsbry, 1901)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は15～20mm、殻径は6～7mm。殻は細長く滴形で、螺塔部は小さく、半透明で黄色を帯びた褐色である。螺管は2層目から急激に巻き上がり、殻体の大半を体層が占める。

【分布の状況】

市内 市内では、湖沼や河川、用水路で確認されている。

その他 本州や九州に分布する。

【減少等の原因】

水湿地の減少、河川の改変、農地の改変、農薬使用

【特記事項】

多数の成体が確認されている個所もある。



撮影：市域内
写真提供：金安 健一

ヒラベッコウガイ

柄眼目 ベッコウマイマイ科

Bekkochlamys micrograpta (Pilsbry, 1900)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 情報不足
-------	--------------	----------	-------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は4.8mm、殻径は9.6mm。殻はやや小形で、螺層は約5層である。殻色は淡い黄褐色で光沢が強く、半透明である。螺塔は低平で、わずかに緩やかに突きでる。各層は緩やかにひろがり、体層は著しく広くなり、その幅は次体層の倍である。殻表は滑らかで、繊細な成長線と細密な螺線によって彫刻されている。

【分布の状況】

市内 市内では、山地で確認されている。

その他 本州、四国、九州に分布する。



撮影：市域外 写真提供：野村 卓之

【減少等の原因】

森林の改変

貝陸
・
淡水
類産
【選定種解説】

キヌツヤベッコウ

柄眼目 ベッコウマイマイ科

Nipponochlamys semisericata (Pilsbry, 1902)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 情報不足
-------	--------------	----------	-------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は3mm、殻径は5mm程度。小形で扁平な右巻貝で、殻質は薄く、螺層は5層である。殻色は褐色で、螺層の周縁に光沢を有する。縫合は深く、殻口はやや斜位に開き、臍孔もはっきり開く。軟体は黒い。

【分布の状況】

市内 市内では、山地で確認されている。

その他 本州（関東地方以西）、四国、九州に分布するが、少ない。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域外
写真提供：野村 卓之

オオウエキビ

柄眼目 ベッコウマイマイ科

Trochochlamys fraterna (Pilsbry, 1900)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 情報不足
-------	--------------	----------	-------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は3mm、殻径は2mm。6層内外で、殻口はほぼ菱形である。殻口の周縁はうすく鋭い。軸唇は臍孔の一部を覆うため、臍孔は狭く開く。殻色は淡い黄褐色。円味のある円錐形で、縫合は深く、螺層はよく膨れるが、周縁の竜骨は鋭い。

【分布の状況】

市内 市内では、丘陵で確認されているが、1個体の死殻である。

その他 本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域外
写真提供：野村 卓之

ヒメカサキビ

柄眼目 ベッコウマイマイ科

Trochochlamys subcrenulata subcrenulata (Pilsbry, 1901)

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 —	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	----------	--------------

【選定理由】

環境悪化

【形態など】

殻高は2.2mm、殻径は3.0mm。螺層は5層。淡褐色で半透明の殻は、カサキビより著しく螺塔の低い円錐形である。体層周縁には鋭く突起した角がある。殻表には細かい糸状縦脈と不明瞭な螺状脈がある。軟体部は淡褐色から赤褐色で、触角は黒褐色である。

【分布の状況】

市内 市内では、山地で確認されている。

その他 本州（宮城県、山形県以南）、四国、九州に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変



撮影：市域外
写真提供：野村 卓之

トウキョウコオオベソマイマイ

柄眼目 オナジマイマイ科

Aegista tokyoensis Sorita, 1980

カテゴリー	新潟市 準絶滅危惧	新潟県 準絶滅危惧	環境省 準絶滅危惧
-------	--------------	--------------	--------------

【選定理由】

環境悪化，希少，局限・孤立

【形態など】

殻高は6mm内外、殻径は9mm内外。殻は小形で、螺層は約6層。殻色は淡褐色である。鱗片状殻皮の付属物がある（個体差がかなりある）。螺塔はやや高い円錐形で、縫合は明瞭である。体層周縁には明らかに稜角がある。殻口は少し下方に向き類円形で、唇縁は弱い反転して肥厚する。軸唇はほとんど垂直で、殻底は弱い角があり、臍孔へ移行する。臍孔は広く開き、殻径の約1/3を占める。

【分布の状況】

市内 市内では、丘陵地や山地で確認されている。

その他 東京都、茨城県、千葉県、神奈川県に分布する。

【減少等の原因】

森林の改変，草地の減少



撮影：市域内
写真提供：野村 卓之

貝陸・淡水類産
【選定種解説】

参考文献（陸・淡水産貝類）

長谷川和範, 1979. 烏屋野潟とその周辺部の陸・淡水産貝類. しぶきつば, 6 : 35-41.

本間義治, 1983. 新潟県陸水動物図鑑. 新潟日報事業社.

村山 均, 1984. 新潟県陸産・淡水産貝類目録. しぶきつば, 10・11 : 52-76.

新潟市史編さん自然部会, 1991. 新潟市史資料編12 自然. 新潟市.

新潟県, 1993. 続・新潟のすぐれた自然 動物（昆虫類, 両生類, 陸水・淡水貝類）編. 新潟県環境保健部環境保全課.

東 正雄, 1995. 原色日本陸産貝類図鑑増補改訂版. 保育社.

新潟県, 2001. レッドデータブックにいがた. 新潟県環境生活部環境企画課.

紀平 肇・松田征也・内山りゅう, 2003. 日本産淡水貝類図鑑① 琵琶湖・淀川産の淡水貝類. ピーシーズ.

増田 修・内山りゅう, 2004. 日本産淡水貝類図鑑② 汽水域を含む全国の淡水貝類. ピーシーズ.

環境省, 2005. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物. 財団法人自然環境研究センター.